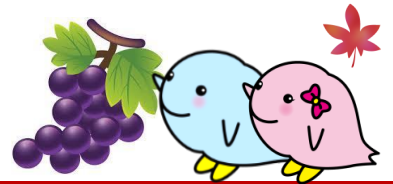




ふたば診療所通信



医療法人社団 支心 事務局 <http://www.shishinn.com>

〒085-0008 釧路市入江町9番14号

tel0154(23)3001 fax0154(64)6611

ブログ始めました。 「お散歩ふわりくん」 ameblo.jp/fuwarikun

facebook随時更新しております

2017年10月15日 (第20号)

今が一番幸せかもしれません

僕が今も診療させていただいている96歳のTさんのお話です。
5月末まで高齢者下宿に住んでいましたが
自ら希望され、8ヶ月間の下宿生活を卒業し自宅へ戻られました。

Tさんは60歳まで真面目に働いて、定年後はマラソンや水泳を始めて
妻とふたり暮らしの自由な時間を楽しんでいました。
..やがて、妻が認知症になり 介護生活がはじまりました。

92歳になった頃、年下の妻が倒れた。 半身麻痺。
食べない。リハビリしない...寝たきり。
始めてTさんに会ったのは、奥さんの入院していた病院の中。
奥さんがこれからどうやって暮らして行ったら良いか？
病院関係者やその他の事業者などで相談する場でした。
そんな中でTさんは
「家に連れて帰って、僕が世話をします。
家に帰ればワイフは必ず元気になります。」

キッパリとそう言いました。...でも、現実的には90過ぎの老人が
そんなこと言って、いったい誰が信用しますか？
楽な暮らしでは無いことは誰の目から見ても明らかだった。
でも、僕はこのTさんの言葉に賭けてみることにしました。...何故なのか、そう思いました。

実際、家に帰った奥さんの認知症は徐々に悪化し、24時間介護生活。
トイレに移動させ、お尻を拭き、リハパンを履かせる。
料理をして、洗濯をして、掃除をして、ゴミを出す。ポータブルトイレの洗浄は思ったより大変だった。
「とうさん。とうさん。」と毎日何度呼ばれたことか...
でも、Tさんは大変な時でも奥さんに対して、決して表情を曇らせたり、声を荒げたりしなかった。

車椅子に乗せてエレクトーンの前に連れていくと リサイタルが始まり、おなじみ唱歌を延々と繰り返す。
ハーモニカを持たせると同じフレーズを延々と吹く。
...そんな奥さんの奏でる音楽を、とても愛おしそうにニコニコ聴いて、拍手をする。

奥さんは頻繁に同じ話を繰り返しましたが、その中で何度も聞いた話が、今 住んでいる家の話でした。
「この家は私がとうさんをお願いして建てて貰ったの。この場所をみつけて、とうさん お願いですから
ここに住まわせて下さいとお願いしたの。」と嬉しそうに教えてくださいました。
Tさんは誇らしげに「この山の木は僕が植えました。庭の花は僕が育てました。」と教えてくださいました。

夫婦の時間の流れと共に、裏山に植えた木々も成長し、今では立派な林になって緑の葉を揺らしている。
そこには たくさんの鳥が遊びに来て、奥さんはそれを見て笑顔を見せている。

日々の暮らしは大変。でもそんな中で、やさしい時間も共有できている。
退院後しばらくの間 Tさん夫婦はそんな暮らしを送っていました。



誕生日のお祝いの写真。
大きな綿棒を耳にあてて
「我々は宇宙人だ」..だそう
です。楽しそうですね！

2017/10/15

谷藤 公紀

~Tさんのお話はまだまだ続きます。次回までお楽しみに(^~)^~

